

特集 ゆるぎない英語力を育成するために

# 3つのセクションを利用して、 文法事項の確実な定着を目指そう！

竹内 理 (関西大学)



文法事項の確実な定着は、4技能を統合したコミュニケーション活動を円滑に進める上で、きわめて重要となります。また、小学校で体験的に学んだものを整理し、発展させていくためにも必要不可欠といえるでしょう。この文法事項の整理・定着を主として取り扱うのは、「文法のまとめ」、「Review」、そして「絵でわかる英語のしくみ」の3つのセクションとなります。

## 文法のまとめ

28NCでは、各Lessonの末尾に配置されている「文法のまとめ」を1ページに凝縮し、より見やすくする工夫を取り入れました。このため、例文の日本語訳は、付録に新設した「基本文のまとめ」(ドリル形式の反復練習などに利用)に移動しました。また、24NCではこのセクションに、確認問題として文法や和文英訳の問題を数問含んでいましたが、28NCではこれらは含まれていません。その代わりに、ペンギンのキャラクターを利用して、生徒が間違いやすいポイントを簡潔にまとめたり(右図①)、関連文法事項との対比を図でわかりやすく提示したり(右図②)しています。

このような変更を行ったのは、本セクションでは「文法事項を明示的に、しっかりと整理・定着させる」ことに焦点を当てたいと考えたからです。文法事項の教え方には、(例文等からルールを引き出させる)暗示的なものと、(ルールを整理して示していく)明示的なものがあります。このセクションは、主として後者の明示的なアプローチで理解を促進していくことを念頭に作られています。つまりGETやUSEのセクションを利用して学んできた事項を、ここでまとめて整理し、確認していくという使い

になります。

さて、「文法のまとめ」を使った実際の授業で留意したいのは、「あそこに文法事項がまとめてあるから試験前に読んでおいてね」といった使い方にならないことです。GETやUSEで使った文を参考にして考えさせながら、グループワーク等を利用し、生徒達に自らの力でルールを整理させていく。その後、このページを参照しながら、しっかりと確認させていくような使い方になるのが理想的といえるでしょう。

その際、教員の側は、整理を誘導するような発問をしていく必要があります。たとえばBook 1 Lesson 9であれば、「過去形と一緒に出てくる言葉には、どんな特徴があるのかな」のように発問し、時には例をあげつつ導いて、産物として、明示的なまとめが出来上がるようにしていくとよいでしょう。そして締めくくりは、整理された知識を活用していくこと。活用を目指した言語活動を、最後にぜひ入れていただければと思います。

**Lesson 9 文法のまとめ**

**過去形(一般動詞)**  
「～しました」と、過去にしたことを言うときは、動詞を「過去形」にして表します。

例文: Amy **played** basketball last Sunday.  
Amy **went** to Hiroshima last year.

練習文: Did Amy **play** basketball last Sunday?  
— Yes, she **did**. / No, she **did not**.

否定文: Amy **did not play** basketball last Sunday.

**動詞の過去形**  
動詞には、その過去形が「ed」で終わる「規則動詞」と、went (goの過去形) のように形が変わる「不規則動詞」があります。

**規則動詞の過去形**  
① edをつける play → played (ll) cook → cooked (ll) wait → waited (ll)  
② dだけをつける use → used (d)  
③ 動詞が子音+sのとき、yをいかにeでedをつける study → studied (d)  
④ 動詞が不定詞でedをつける stop → stopped (d)

**不規則動詞の過去形**  
go → went say → said have → had see → saw

**現在形と過去形**  
① I play baseball.  
② I played baseball yesterday.

左の①の現在形は、いつも(習慣的に)しているということを示します。②の過去形は、過去のあるあるの動作や状態を表します。

Book 1 Lesson 9 文法のまとめ

|   |                                |
|---|--------------------------------|
| 9-1 □ Amy <b>played</b> basketball last Sunday.                   | □ エイミーは先週日曜日にバスケットボールをしました。    |
| 9-2 □ <b>Did</b> Amy <b>play</b> basketball last Sunday?          | □ エイミーは先週日曜日にバスケットボールをしましたか。   |
| □ — Yes, she <b>did</b> . / No, she <b>did not</b> (didn't).      | □ — はい、しました。 / いいえ、していません。     |
| □ Amy <b>did not</b> (didn't) <b>play</b> basketball last Sunday. | □ エイミーは先週日曜日にバスケットボールをしませんでした。 |
| □ Amy <b>went</b> to Hiroshima last year.                         | □ エイミーは昨年、広島へ行きました。            |

Book 1 付録 基本文のまとめ (Lesson 9)

## Review

文法事項に関わる2つ目のセクションは、「Review」です。我々教員の悩みの1つは、教えたことがなかなか定着しないことにあります。しかし、記憶のメカニズムから考えると、これは至極当然のこととなります。定着を促進するには、繰り返し対象に触れさせ、そして実際にその対象を利用してみるのが大切ですが、従来、このような繰り返し対象が、教科書には欠けてしまうきらいがありました。28NCで設けられた「Review」のセクション(学年ごとに2箇所)では、この点を反省し、いくつかのLessonに散らばって存在している重要文法事項を1つにまとめ、関連づけながら整理していきます。例えば、右に示されているBook 3のReviewであれば、これまでに学んできた時制が、例文と図を使ってコンパクトにまとめられています。

このセクションを利用した指導上の留意点としては、いきなりこのページを見せるのではなく、生徒にこれまでの学習を振り返らせ、自らにReviewを作らせる、ということがあげられます。その際、「文法のまとめ」のセクションと同様に、ペアワークやグループワークなどの協働作業が重要となってきます。また、教員の発問による誘導も必須でしょう。加えて、単なるまとめの作業に終始しないよう、まとめたあとは、これらの文法事項を使ったコミュニケーション活動を取り入れていくことも大切です。

## 絵でわかる英語のしくみ

3番目のセクションが、付録にある「絵でわかる英語のしくみ」です。この部分は、単なる文法のまとめではなく、英語という言葉の特徴を、日本語と対比させながらまとめているセクションです。たとえば、Book 2のp.130にある「情報の流れ」の解説などは、「英語らしさ」がどのようにして生まれるのかという問題を取り扱っており、言語の学習を通

して文化の機微にも触れることが可能となっています。このような対比をサンプルとしてみせ、より自然な英文を考えさせるような活動を適宜加えることで、学習者の動機づけにも役立つものと思われます。

上記3つのセクションすべてに共通しているのは、断片的な文法事項の理解を、(学習者が主体となって)体系的な知識に整理・変換し、それを使うことで定着させていこうとする流れです。この流れの中で、28NCの3つの文法セクションが大いに活用され、生徒たちの文法力がより確固なものになれば、著者一同、嬉しい限りです。

**Review 時制**

これまで学んできた、現在・過去・未来を表す表現を復習しましょう。

①現在形「～します」 いつも(習慣的に)すること  
I play tennis.  
過去 現在 未来

②現在進行形「～しています」 動作をしている途中  
I am playing tennis now.  
過去 現在 未来

③過去形「～しました」 過去のあるあるの動作  
I played tennis three days ago.  
3日前 現在

④過去進行形「～していました」 過去のあるある時にやっていた動作  
I was playing tennis then.  
そのとき 現在

⑤現在完了形  
継続「(ずっと)～しています」 過去から現在まで継続していること  
I have been in bed for four days.  
4日間 現在

完了「～しました」 ものことが完了している状態  
I have finished lunch.  
現在

経験「～したことがあります」 これまでに経験したこと  
I have been to Kyoto twice.  
[twice = 二回] 現在

⑥未来を表す表現  
be going to「～するつもりです」 [きっと～する] 予定・将来に起こりそうなこと  
I am going to play the piano at the party tomorrow.  
現在 明日

will「～でしょう」 [～しようと思う] これから先のことの推察・意志  
Jun will be a pianist in the future.  
現在 [将来 = フューチャー]

Book 3 Review 時制

**3. 情報の流れ(英語の発想)**  
英語の文の中で、情報がどのように伝えられているか見てみましょう。

①  
What did Natsume Soseki write?  
Natsume Soseki wrote Batchan.  
It is one of the most popular books in Japan.

②  
Who wrote Batchan?  
He was written by Natsume Soseki.  
He taught English in Matsuyama.

文はそれぞれ、「知っている情報-新しい情報」という順番になっているよ。新しい情報は後ろのほうに来て、次はそれを前に置いて情報を付け足していくんだね。

Book 2 付録 絵でわかる英語のしくみ

NEGIISHI MASASHI  
TAKEUCHI OSAMU  
HIDAI SHIGEKI  
MATSUZAWA SHUNJI  
SUZUKI SATORU  
KENO OSAMU  
KUDO YOJI  
IMAYUKI HIROKI  
SAKAI HIDEKI  
TANABE YUJI  
TAJIMA MITSUKO